

## 臨床研究に関するお知らせ（オプアウト文書）

### 1 研究題名

肺大細胞神経内分泌癌におけるNR1発現の検討

### 2 実施概要と目的

担癌患者さんにおいて、稀に腫瘍の転移、圧迫、浸潤によらず神経症状を来す病態を傍腫瘍性神経症候群と呼びます。その原因には腫瘍から生じる物質や、腫瘍に対する免疫反応によって生成された抗体が他の組織に交差反応をもたらすことなどが考えられております。傍腫瘍性神経症候群は肺癌では特に小細胞肺癌に合併することが多いことが知られています。

NMDA受容体はイオンチャネル型グルタミン酸受容体であり、人体の中で主に中枢神経系に広く発現し、神経伝達に寄与しています。NR1はNMDA受容体を構成するサブユニットの1つであり、腫瘍に発現したNR1サブユニットに対する抗体産生がおけると意識障害、けいれん発作などを伴う抗NMDA受容体脳炎を発症することが知られています。抗NMDA受容体脳炎は、これまで卵巣奇形腫に随伴する傍腫瘍性脳炎として提唱されてきましたが、近年ではそれ以外の腫瘍や、腫瘍を伴わずに発症することがあるとされています。実臨床では抗NMDA受容体脳炎は髄液中の抗NR1抗体の有無が重要な診断根拠とされておりますが、腫瘍組織自体のNR1発現の有無、抗原性の有無については検査されていません。

肺癌患者さんにおいてはこれまでに小細胞肺癌において稀に抗NMDA受容体脳炎を合併することが報告されており、これまでの研究で小細胞肺癌ではNR1サブユニットの発現が一般に認められることが示されています。しかし、その他の肺癌においてはNR1サブユニットの発現の有無は検討されたことはなく、本研究ではその他の肺癌、特に小細胞肺癌と同じ神経内分泌腫瘍に分類される肺大細胞神経内分泌癌でも小細胞癌と同様にNR1サブユニットを発現しているかどうか、そして抗NMDA受容体脳炎の原因となり得るのか検討することを目的としています。

### 3 研究が行われる組織及び期間

（組織） 東京通信病院 呼吸器内科

（期間） 2023年1月1日～2023年12月31日

### 4 研究の対象

2006年1月1日から2021年12月31日までの期間、当院で肺大細胞神経内分泌癌と診断された患者さん。

### 5 研究方法

当院で保存されている病理検体を用いて、免疫染色検査を追加で行います。病態の研究のために、患者さんのその他の診療情報（年齢、性別、病歴、臨床経過、診察所見、検査所見、画像所見、病理学的所見など）をカルテから収集し使用する可能性があります。

6 対象患者さんの負担や人権擁護対策（プライバシーや副作用等の対応について）

以前に採取された検体や過去の診療記録から抽出した診療情報を用いるため、新たな検体採取を行うことはなく、対象患者さんに負担はありません。

患者の氏名や患者IDなどは用いずに匿名化した状態で検討します。学術論文や学会で公表する場合でも、氏名や患者番号など、個人が特定できる情報は削除され、患者さんの個人情報（プライバシー）は厳重に守られます。研究対象の患者さんから検体や臨床情報の使用不可のご連絡があった際には、その旨を記録し解析には使いません。

当研究は通常診療により得られた検体、臨床情報を用いる介入のない研究であり対象となる方に文面および口頭による同意取得は実施いたしません。しかしながら、研究参加の拒否をご希望される際には、下記に記載されている連絡先にその旨をお申し出ください。

7 研究者の所属、氏名、連絡先等

**【東京通信病院】**

呼吸器内科 研究責任者 稲葉 敦

〒102-8798 東京都千代田区富士見2-14-23 電話番号：03-5214-7111(代表)